

## 平成18年度第1回 福岡市中央卸売市場開設運営協議会 議事録

1. 開催日時 平成19年1月11日(木) 14:00～15:50
2. 場 所 福岡市中央卸売市場鮮魚市場会館2階 第1会議室
3. 出席者 福岡市中央卸売市場開設運営協議会委員 13名(別紙委員名簿参照)  
欠席: 妹尾俊見委員, 波積真理委員  
市側: 農林水産局長 外20名
4. 傍聴人 なし
5. 報 道 NHK, KBC, TNC, FBS  
毎日新聞, 読売新聞, 九建日報
6. 議 題 (1) 青果部市場の再編成及び再整備について
7. 報 告 (1) 中央卸売市場における震災復旧状況について
8. 会議内容  
会長あいさつ, 農林水産局長あいさつ, 委員紹介, 開設者紹介に引き続き議事に入る。

### 議題1 青果部市場の再編成及び再整備について

会 長: 議題1の「青果部市場の再編成及び再整備について」であるが, 審議に入る前に若干説明させていただく。

本件については, 昨年度の本協議会で審議し, 青果部3市場の統合を前提に, 現地再整備と他の場所への移転整備の両論を検討することとしている。これを受けて, 青果業界では論議を重ねられ, 昨年11月20日に「青果部3市場を統合し, 新青果市場をアイランドシティにおいて整備することが適当である」との結論を出されている。

先日, 委員各位にお知らせしたように, 青果業界からこの結論をもって, 本協議会に要望が出されており, これを踏まえ, 本協議会としてもこの問題について議論し, 市長に対して意見を申したいと考えている。

まず初めに, 青果業界からの要望について, 事務局から説明をお願いします。

事 務 局: 配付資料により説明

会 長: 青果業界からの要望は只今説明されたとおりであるが, 本協議会の審議に先立ち青果物流通の専門的な見地からの意見をいただくため, 本協議会青果部会の審議をお願いしている。その結果について, 青果部会長から報告をお願いします。

委 員: 青果部市場の再編成及び再整備について, 青果部会で審議したので報告する。  
このことについては, 事務局から説明されたとおり, 青果市場業界から市場開設運営協議会に要望があっている。これを受けて, 青果部会で審議するよう依

頼があったので、平成 18 年 12 月 8 日に審議を行い、配付資料の 4 ページ、5 ページのとおり、結論に至っている。

まず、青果部市場の再編成については、青果市場への一極集中化によって、東部市場及び西部市場の取扱量が低迷するなど、中央卸売市場としての役割や機能が低下していることから、市場業界の経営体質を強化し、市場競争力を強化するためには、青果部 3 市場を統合することにより経営資源を集中することが必要であるとの結論に至った。なお、市場関係者の一部から、西部市場の存続について要望があり、市においては今後とも、市場統合についての理解が得られるよう努力していただきたいということを申し添える。

次に、青果部市場の再整備実施場所である。青果市場業界からは、先ほど説明があったように、青果部 3 市場を統合し、新たな青果市場をアイランドシティにおいて整備することが適当であるとの結論が出されている。青果部会としても審議した結果、市場業界が懸念するように、現地で再整備した場合に生じる市場活動の停滞や混乱、建設期間の長期化などの課題は、本市における青果物の安定供給に大きな影響を与えると考え、他の場所への移転が望ましいとの結論に至っている。また、移転場所については、市場業界において 4 つの候補地を挙げて検討されているが、市場用地として十分な面積が確保できること。また、既に国の事業採択を受けていることから、早急に建設に着手できること。この 2 つが移転場所を選定するうえで最も重要な要件と考え、青果部会としても、アイランドシティが候補地の中で最も適当であると考えます。

最後に、市場再編・再整備に伴う必要な施策について、市場業界からは、市場の再編・再整備にあたり、「アイランドシティ周辺環境の整備」「施設使用料増加の抑制」「増加する経費への助成措置」「中継所の設置」「自然災害対策」「市場関係者用地の確保」と、この 6 項目について要望がなされている。市場の移転・統合により、市場関係者が受ける影響は大きいと考えられるので、市においても、青果部 3 市場の関係者が円滑に新市場に移転し、営業を開始できるよう、これらの要望事項の実現に向けて努力していただきたいと考える。

以上、青果部会の審議結果について報告する。

会 長： 次に、青果業界では、再整備場所についての議論を重ね、結論を出されたとしているが、具体的にどのような検討がなされたのか、事務局から説明をお願いする。

事務局： 別添資料：（青果市場の現状及びこれまでの検討経緯等）について説明

会 長： それでは、青果部会からの報告および青果業界における検討状況を踏まえ、青果部市場の再編成と再整備について、意見・質問をお願いする。よろしければ、3 市場の中で、最初にとりかかって、現地で建て替えを行われた、鮮魚市場からの意見をお願いしたい。

委員： それでは、2～3点述べさせていただきたいと思う。

第1点は、現地改築についてであるが、鮮魚市場では現地での改築工事を約10年間経験してきた。一番ご迷惑をかけたのは生産者の方々だった。市場が受けた生産者からの多くの苦情は、待機時間の延長や荷降ろしの危険性である。仮設売場を使用しなければならず、売場スペースが半分程度になり、積み降ろしができないというクレームが多々あった。

第2点は、当市場の場合、以前、午前3時30分だったセリ開始時間を、工事による荷降ろしの支障等のため、1時間繰り上げて午前2時30分に変更したので、色々な仕組みが変わり、業界全体が時間をロスしたということがあった。また、建設期間中の仮設売場の設置など、この10年間、生産者、卸、仲卸、売参等の関係者が、狭隘化の中で非常に苦勞してきた。委員各位に伝えたいのは、先程の事務局から説明で、工事期間中の営業活動等への支障が「予想される」という説明があったが、私どもは現実としてそういうことを体験してきたということである。青果部市場の移転新築について、青果部2010検討委員会での結論を出されるまでには大変な苦勞があったと思うが、現地改築での、仮設し、それから少し移動し、また、次を建てていくローリング工法は、経済的な面からも相当な負担がかかり、建設費が予定を超過するのではという懸念もある。第3点は、市場統合についてであるが、私は統合するべきだと思っている。今日の新聞にも一部の反対があるという記事があったが、私は統合をして、一極集中をさせて、市民のため、また会社の経営力向上のためにも大事なことではいかと思う。また、場所としてもアイランドシティは機能や面積もあり、青果部会長から説明があったとおり、私は適当ではないかと思う。

委員： 鮮魚市場の再整備を始めた頃は、周辺に、マンションなどは殆ど無かったと記憶しているが、今となってみると、鮮魚市場の周辺は非常に開発されて、たくさん住宅等ができ、近隣住民の生活との折り合いという問題が発生している。市場が効率的な物流施設を目指すためには、物流的な環境が整った場所がいいのではないかと考えている。

委員： 食料は1日も欠くことができないものであるが、この卸売市場も、都市に不可欠な社会資本と社会インフラである。一方、交通渋滞を起こすとか夜の騒音を引き起こす、夜の光を放つなど、都市にとってはまたマイナス要因でもあり、都市が成長すればするほど、マイナス要因が強くなってくる。これは、世界的にも同じような動向で、例えば中国の北京、韓国のソウル、インドネシアのジャカルタ、タイのバンコク、フランスのパリ、イギリスのロンドンなどのように、世界の大都市は、必要だけでもマイナス要因が強くなるので郊外に移転している。そういう世界の動向から考えると、この機会に、騒音や交通渋滞が起こらない場所、影響のない場所に移転するのが望ましいと思っている。

委員： 私も、平成 11 年からこの協議会に入り、8 年間、青果部市場の再編・再整備事業の検討に関わってきた。今まで、多くの方々に様々な検討をやっていただき、心から敬意を表したいと思う。その中で、やっとここまできて、いよいよという段階になった。私も青果部市場の再編や移転の結論については、要望どおりだと思っている。そこで、確認したいが、先般 12 月に福岡市長に業界からの要望書を提出された時は、どのような状況であったのか。

委員： 青果部 2010 検討委員会の中で、一部の団体の反対はあったが、青果市場業界をあげて市場を早急に整備してもらいたいとの結論に達したので、それぞれの代表に出席いただき、審議してきた内容について、市長に提出させていただいた。内容としては、取扱高が低迷している東西市場は、本社の青果市場から約 10～20 パーセントも転送している状態で、経費も嵩んでいること。また、国整備計画の基準取扱数量に達していないため、近い将来、建て替える場合に国からの補助金が出ないこと。青果市場については、3 市場の総取扱量の 80 パーセント以上が一極集中し、過密状態にあること。また、西方沖地震の時には、青果市場売場天井部の破損したボルトが 30 個も落下するなどの被害もあり、それだけ施設が老朽化している現状で、これは持ち堪えられるのかといった問題に加え、昭和 40 年代に開設した青果・西部市場の機能不足といった問題もあること。業界の各団体から出た意見としては、現地改築でのローリング工法は建設期間が長期化し、市場の集荷力が弱まり、実際に現地で再整備を行った市場では、そういう現象が現れた場合があること。こういう中で、できるだけ早く対応しないと、福岡都市圏の市民に供給する青果物が集まらない危険性が出てくることなどから、市場再整備と 3 市場統合の必要性について議論してきたことを市長に報告した。そして、3 市場とも慣れ親しんだ市場であり、市場統合は誰にとっても辛い選択であったが、業界としては将来を見据えて、苦渋の選択を行ったうえでの結論を、私ども卸会社のほか、仲卸業者、小売事業者、生産者、関連事業者それぞれの代表で要望書として提出させていただいた。

委員： それに対しての吉田市長の回答はどういうものだったのか。

委員： 「検討させていただきます」ということであった。「よく内容を読ませていただく」という内容であった。

委員： その場ではそういう内容だったであろうが、12 月の本会議では、「もっと多くの市民の皆さんから意見を聞いて再度勉強したい。」ということであった。多くの市民と言っても、既に多くの市民の声を聞いてここまで来た訳であるから、私としてはいかななものかと思っている。今まで積み上げてきた開設運営協議会の決定は最終的なものであり、最後は福岡市長の決断だろうと考えている。3 月には予算議会が始まろうとしており、様々な予算をこれから編成していく中で、当然これについては当初予算で組み込まなければならないと思っている。

そこで、農林水産局として市長にしっかり説明して、納得させるといった見通しについて、回答いただきたい。

事務局： 市長は、業界からの要望を受けた時や12月の本会議でも答弁しているが、青果部3市場の統合と移転、この2点については、十分ご理解をいただいたと考えている。ただ、アイランドシティについては、市長自身の公約との関係があることと、もう1つはアイランドシティと市の土地利用計画の検討委員会を早々に立ち上げるという発言をしている。アイランドシティについては、公約との絡みがあり、少し時間を貸して欲しいと言われている状況である。私としても、青果部市場の移転統合については、十分ご理解いただいたと思っているので、市長とも十分協議しながら進めていきたいと思っている。

委員： 私が農林水産局にお願いしたいのは、市場の移転場所は、市長公約との関係があるのかもしれないが、今まで大変長い歳月をかけて、多くの意見を聞き、紆余曲折を経て、いよいよ最終段階となった時に、水をぶっかけられるようなことをされたら、とんでもない話だと思っている。従って、この問題については、農林水産局をあげて市長と十分な検討を行い、必ずこの要望をまとめ、なんとしてでも当初予算の中できちっと反映できる方向でやっていただきたい。私達も精一杯努力するので、是非よろしくお願いしたい。今日まで大変な努力のもとに出された青果部市場の将来のこともあり、なんとしてでもしっかりした結論を出したいという気持ちが一杯で、質問をさせていただいた。よろしくお願いしたい。

委員： ○○委員がお話になったこととも関連しているが、資料6ページの「移転先の要件」には、「十分な面積が確保できる」、「すぐにでも建設が可能」、「交通アクセスが良好」がある。直接的にはこのような要件が必要と考えるが、他の要件として、大きな福岡市の街づくりの観点から、市場機能とは正に物流施設・物流機能を持ったものであるから、これが住宅地あるいは商業地の中にあっているのかと思う。東西市場周辺にも住宅地が多くあり、青果市場周辺には多くの商業施設などがある。しかも、青果市場は物が入ってきて1日のうちに出ていくという宿命を背負われている。当然、24時間動いている市場は一時の休みもない訳であるから、そういう施設を、福岡の街づくりの観点から、きちっとした物流施設を配置するような地区にもっていかなくてはならないという大きな前提を先に考えておくべきであるし、これは是非とも答申の中に入れて欲しいと思っている。私も青果部会に在籍して数年間にわたり議論させていただいており、先の12月議会の中でも質問させていただいたが、市長には「どうしても人工島でなければならないのか」のこだわりがあるかとも思うが、その中で検討委員会を作っていきたいということになると、私どもの意見はどうなるのかという疑問が残る。聞きたい点は、この審議会と同じようなものができ

てしまうのか、それは外部の検討委員会なのか市役所内部の検討委員会になるのか。今まで数年間にわたってこの協議会に身を置いた者としては、非常に気になるところなので、教えていただきたい。

事務局： 今、私どもが聞いているのは、どういう形でその検討委員会が立ち上がるかという内容までは把握していない。ただし、農林水産局としては、この協議会の中で受けた意見を、その検討委員会に報告させていただきたいと思っている。

委員： その検討委員会がここよりも上位にあり、この協議会から出した意見をまたそこで検討して、例えば半年なら半年の中で結論を出すということではなく、長い時間をかけてやってきたこの協議会の意見を最大限尊重していただくということを最後に強くお願いしておきたい。

委員： この開設運営協議会の青果部市場再編・再整備計画については、最終的に4つの移転候補地の中で、アイランドシティが最も適当であるとした結果について、私は納得した。統合や再整備の必要性、移転場所の決定については、もちろん公設であるから、この協議会で方針が決定されれば、そのことについて市民に説明をしなければいけないと思っている。その中で、今日の資料にある、「市民のニーズ」というところで、事務局からも「水みたいなもの」という説明があったが、一般消費者は、市場機能の重要性というものについてなかなか気が付かない。そういう点で、市民・消費者に理解を深めてもらうことが必要だと思う。昨年12月、NHKの「クローズアップ現代」で、地方市場の閉鎖が多くなってきており、その地域の市場が潰れてしまうことによって、その地域の特産品がその地域で買えないという放送があった。例えば、夕張で夕張メロンを作っているのに、夕張の八百屋さんは札幌から引いてこないといけないという状況を含めて、いかに卸売市場があるということが、地域の農業や市民生活にプラスになっており、無くなったら困るということをもう少しアピールしなければならなかったと思った。私も生活協同組合で運動してきたが、契約農家から納入ができていないと、欠品する訳にはいけないので、結局は市場から持ってくることになる。そうすると、やはり福岡に市場がないと困るということになる。そしてもう1つ、資料の「新市場のコンセプト」という中で、「食の安全・安心を確保する市場」という3番目の項目について、資料では簡単に「温度管理・品質管理の強化」と書かれているが、市場の生き残りということでは、検査機能の強化ということを経営の特徴として出すこと。また、市場経営の安定化は、広く市民にとってプラスになり、そういうプラス要素が産地開発の強化につながるというようなアピールをすること。これらが、より安全・安心なルートと安全・安心な物を食べたいという市民ニーズに合致するのではないかと思う。それから、コストについてであるが、具体的な用地取得の価格について、説明がなかったのは是非聞きたいが、確かに、4つ出ているものの中では、十分な

面積を確保できるということで残ったアイランドシティは評価できるが、購入するために莫大な費用がかかるならばどうかということにもなるので、現時点で、土地単価をいくらで試算し、移転するのであれば、現市場用地の売却することにもなるだろうから、比較するとどうなるか、これは税金の無駄遣いではないということがわかるような数字の説明が必要と思うが、その点について、お答えいただきたい。

事務局： 移転候補地の土地単価について、それぞれ試算した結果は、福岡空港周辺・月隈地区は、現在、国が第2種の騒音対策区域ということで、空港周辺整備機構を通じて買い取っている価格を参考にすると、坪単価約80万円から100万円程度となっている。これに加えて、対象地の約1/3、約3ヘクタール程度の土地に建物が建っているため、その移転補償費が必要となる。次に、九大移転跡地・箱崎キャンパスであるが、近隣の地価公示価格を参考にすると、平米約21万円程度である。次に箱崎埠頭であるが、博多港開発（株）の公表価格を参考にすると、平米約9万円程度である。ただし、この場所については既に分譲が開始され、残地としては、飛び地の状態で8ヘクタール程度しか残っていないという状況である。次にアイランドシティであるが、これは市公表の標準画地価格を参考に、以前、日本通運に売却された金額よりも若干低めに試算し、平米12万5千円としている。これは、市場が10ヘクタール以上の用地を購入することを考えれば、その部分に対する基盤整備が不要となることなどからである。これを、各候補地の取得費用の総額でみると、市場用地を12.5ヘクタール購入するとした場合、福岡空港周辺地区は約330億円、次に、九大の移転跡地では約260億円、箱崎埠頭では約110億円となり、アイランドシティでは約160億円になると考えられる。また、現市場用地については、青果市場が約9ヘクタール、西部市場が約3.2ヘクタール、東部市場が約2.3ヘクタールとなっており、近隣の評価額を参考に試算すると、青果市場が平米約12万円、西部市場は平米約13万円、東部市場は平米約8万円である。この3市場の用地をすべて売却するとすれば、約170億円程度になろうかと試算している。この場合、仮にアイランドシティを12.5ヘクタール購入するとして、青果部3市場用地の売却益をもって充てるということになれば、今の試算ではほぼ同額となるのではないかと考えている。

委員： 了解した。アイランドシティの場合、市の2工区であるから、港湾局から市場へ有償で移管することになると思うが、港湾特別会計を儲けさせる必要はなく、最近、日通さんが購入した土地単価を参考に検討すれば、土地単価としての推計ができると思うので、その点で、無駄な土地代がかかるのではないという説明が必要だと思っている。また、市場がアイランドシティに移転した後の問題として、市場関係者からも要望が出ているが、住民または一般市民にとって、

どうなのかというところから問題を解決する必要があると思う。私が気になっているのは、私は東区の住民であるが、交通問題といった時に、市場1つをとってみても、かなりの量のトラックの行き来が発生し、朝ラッシュにぶつかるだろうという問題をどう解決するのかという点である。都市高速のランプを延伸しても交通容量が増える訳ではなく、東部方面からの通勤には、香椎・香椎浜・松島ランプから高速バスが乗ってくる状況がある。そうすると、午前8時30分頃までの朝ラッシュ時間帯で、その渋滞が長引くのではないかという懸念があるので、市場関係者から見た交通アクセスの問題とは別に、一般市民に対する交通政策としてどうするのかということ、市場がここに移転することが必要であるという前段を踏まえて、市全体として検討すべきと考える。市民から色々注文が出てきた後では間に合わないので、検討会の設置などを含めて、検討するとすれば、どういう所で検討するのか、お尋ねしたい。

事務局： 交通アクセスの問題については、仮にアイランドシティに新青果市場が移転した場合、交通量増加による渋滞の要因になるのではないかというご指摘であるが、私どもとしては、新青果市場をアイランドシティに移転することが決定されれば、関係局である土木局、都市整備局、港湾局との協議、これは、周辺環境の整備により、アイランドシティ全体の付加価値を高めることにもなるので、農林水産局としても、市役所内部の関係局と連携して、検討していきたいと思っている。

委員： 了解した。

委員： 私は生産者の1人として今の話しを聞いていたが、3市場が統合するというのは、やむを得ない選択だと思っている。ただ、その際には、市場再整備に対する要望について、しっかりと協議し、対応していただきたいと思っている。

会長： 今、移転ということで色々意見が出ているが、移転で再整備した食肉市場から、意見あればお願いします。

委員： 食肉市場は、平成12年の4月に現地に移転してきた。食肉市場の場合は、約2年間で移転整備している。鮮魚市場の場合は現地ローリングでやっているが、青果部市場の再整備については、現青果市場用地でローリングを行うことが果たして可能なのかと思っており、移転して再整備を行う方が遙かに効率的であるとも思っている。私どもも移転して再整備をやってきたが、新市場に向けた施策を色々検討してきた中で、市場として大事なことは、生産者と売参者をいかに継続して維持していくか、あるいは増やしていくかという作業が、1番大きなポイントになると思う。先程の話でもあったが、ローリングでやっていくことになれば、今以上に過密状態になってくる。そうすると、生産者も購買者も離れていくということになり、1度離れた顧客はなかなか戻せないという現状がある。食肉市場は、1つの生産者が他の市場に持って行きたしたら、それ



を我が社に戻すということは、1年でできるような問題ではないということから考えれば、やはり、移転して再整備することが必要であると思う。また、市場の統合は、これは青果だけではなく、食肉市場においても同様の状況がある。牛・豚などの生産者は国内生産が非常に減ってきた中で、と畜場が過密状態になる。生産者が見れば、物の取り合いが非常にさかんになっている。そういう部分で、国は方針として市場を再編しようと言うけれども、雇用問題などの理由で、再編は非常に難しい。青果についても、福岡市の中に果たしてこのままの3市場体制でやっていけるのか。特に東部・西部市場のことを考えれば、1カ所での効率的な集荷・販売が理想的であると思っている。また、先程の委員からの指摘の中でも大事なことは、ここまで積み上げてきたものを、また新たにゼロから討議する、この委員会は何だったのかということにならないように進めていただきたいと思っている。

会長： やはり西部市場の問題については、この統合でネックになっている部分がある。集荷という部分から見れば、卸会社が力を持っていないと、集荷する力がなくなってしまふ。そういう意味でも、苦渋の決断をされたということも認識している。先程も、卸から相当なバックアップをしてなんとかやっていることを聞いたが、その現状について、〇〇委員にお尋ねしたい。

委員： 市場の集荷力強化、経営力向上という点で、市場が生き残っていくために、各市場が色々な模索を始めている。私どもも市場を経営する立場の卸会社として、国の指導による流通経費の2割削減を目標に努力しているところである。当社としては、3市場体制によって、その経営力が分散し、経費がかなり嵩んでいる状況があるが、通常消費地市場では、この部分を強化しないと集荷力が弱まり、特に現在見られるのが、大市場に物が集まる傾向である。本市青果部市場としても経営資源を集中しなければ、集荷力が弱くなるという現実的な問題に対して、早急な要望を出している訳である。そういう中で、市場の経営効率化という点では、私ども卸会社としても経営努力を積み重ねながら、集荷の方に力を入れていくことが必要だと思っている。国の答申もそういう形の中で動いており、私どもも同様に進めていく前提である。また、拠点市場としての役割として、まず、ここに物が集まるような仕組みを作るためには、卸売会社として、経営体質を強化しなければならないが、現在、東西市場の経営状況については、これを独立採算で考えた場合には、かなりの赤字が出ているものと試算され、その部分を本社費用でまかなっているという状況を改善するためにも、3市場の統合を早急にお願いしたい。これが、私どもの要望である。

委員： 青果部会で、長い間、副部会長をやってきたので、青果部市場の再編・再整備について、前に進めていただきたいと思っているが、先程、〇〇委員からの質問の中で、現3市場を売却した場合の話があった。西部市場の問題で中継所

の設置という要望が資料の5ページにも出ているが、その点について伺いたい。

事務局： 先程の説明の中では、仮に現市場用地を売却した場合として考えているので、今後、西部市場の関係者と協議を進めた結果、中継所設置の要望があれば、市場の一部を活用するという形になるかと思っている。

委員： 了解した。

会長： ほかにご意見はないか。

それでは、これから本協議会の意見を取りまとめたいと思うが、本協議会の結論としては、青果業界の意向と青果部会からの意見を踏まえ、まず、青果部市場の再編成については「青果部3市場の統合が望ましい」、次に、再整備については「他の場所への移転整備が望ましく、その場所としてはアイランドシティが適当である」。最後に、「市場の移転・統合にあたっては、市場関係者からの要望事項の実現に向けて努力されるようお願いする」ということを骨子にしたいと思っている。また、この協議会の中で出た意見も十分に取り入れたいと思っているので、そのように意見を取りまとめてよろしいか。

各委員： 異議なし。

会長： それでは、市長に対する意見書については、本日決定いただいた内容で、文案を作成し、皆様にお示しした後、市長に提出したいと考えている。よろしいか。

各委員： 異議なし。

会長： 異議がないようなので、そのようにさせていただく。

これで、議題が終了したので、ただ今から報告事項に入る。

#### 報告事項（1）中央卸売市場における震災復旧状況について

事務局： 配付資料13ページ、14ページにより説明

会長： ただいまの報告事項について、何か質問等は。

委員： なし。

会長： これをもって、平成18年度福岡市中央卸売市場開設運営協議会を閉会する。